

「美笛の滝」

50メートルの高さから階段状の岩肌を白糸のように水が流れ落ちる滝。水量が増し豪快な姿を見せる春、深緑の夏、紅葉の秋と、季節ごとに表情を変えます。



「巨木の森」

樹齢300年以上のカツラやミズナラなどの大木が群生し、精霊がすむとの言い伝えがある幻想的な森。美笛キャンプ場入口付近の林道から見学できます(森の中は立入禁止)。



「オコタンペ湖」

湖面が天候によりエメラルドグリーンやコバルトブルーなどさまざまな色に変化して見える湖。北海道の3大秘湖のひとつで、特別保護地区に指定されています。



「キャンプ」

支笏湖周辺には炊事場や売店、トイレなどが完備された美笛、モラップ、オコタンのキャンプ場があり、森と湖に囲まれた豊かな自然を楽しむことができます。

ま

ちの近くにある本物の自然。支笏湖には、そこに一歩入るだけで、手つかずの原始の姿をした自然があります。

中原さんは、支笏湖を訪れた方に、観察会などで自然のすばらしさを伝えていく方です。

にぎわう温泉街の脇にクマゲラが子を育てる森がある。冬は、雪穴に頭だけをかくしているタヌキのお尻をつついてみたことも。そうした自然が支笏湖にはあります。

「何度も来ている支笏湖に、こうしたすばらしい自然があることは気づかなかった」観察会に参加した方の言葉です。さまざまな発見、そして感動を与えてくれる支笏湖



の自然。

中原さんは、観察会に参加する方に、自然を見つめることで、自然と人間との関わりを理解してもらいたいと願っているそうです。大昔から続いている自然界のつながり。これを断ち切る

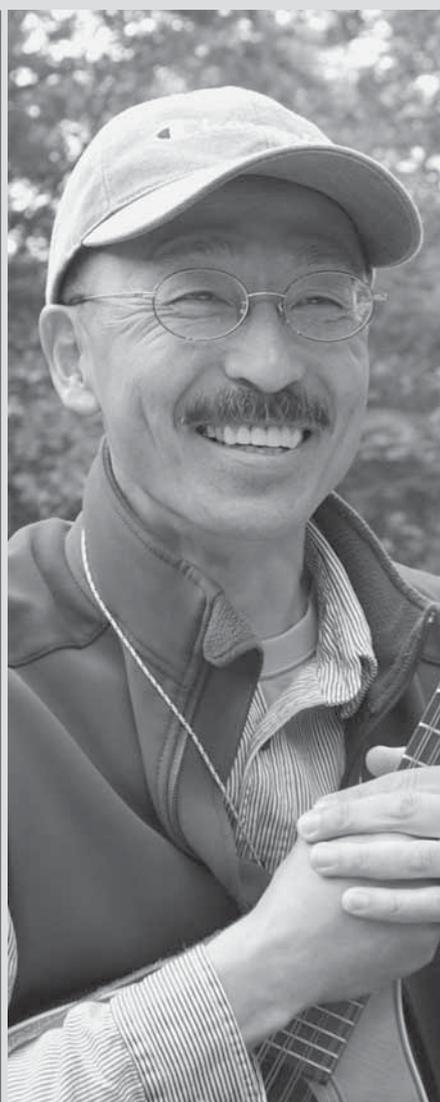
目の前に本物の自然がある

手つかずの自然が残る支笏湖の魅力

のは人間だけです。これからも私たちは、自然のしくみを大切に、自然と共生していくことが大切です。

「この100年間、人間は自然を壊し続けてきました。しかし、支笏湖では水生生物を守るために動力船の乗り入れを禁止するなど、みんなの手で自然とのバランスを保ち続けてきました。ここは、人間が自然との関わり方を気づかせてくれるところですよ」と中原さん。無造作に捨てられたごみを拾い、失われた森に木々を植える。人が来れば来るほど、守られる自然をつくっていくたい。そして、自然を感じる場になりたい。

中原さんは、自然を想うやさしいまなざしで話してくれました。



支笏湖の魅力②

中原 直彦 さん

なかはら なおひこ / 49歳 / 里美
しこつ湖自然体験クラブ「トゥレップ」事務局長。小学校の教員をしながら、地域で自然観察会・体験会の運営や音楽活動などを行う。トゥレップでは平成15年の設立時から事務局長として活躍している。